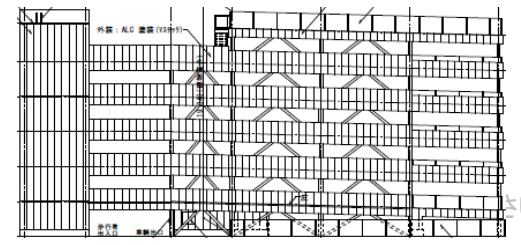
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	熊本立体駐車場新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本県熊本市中央区下通1丁目12-	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	6 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018月1月　竣工	評価の実施日	2017年2月3日
敷地面積	2,009 ㎡	作成者	柳田　果李
建築面積	1,358 ㎡	確認日	2017年2月3日
延床面積	6,964 ㎡	確認者	吉永　拓郎

■ 外観



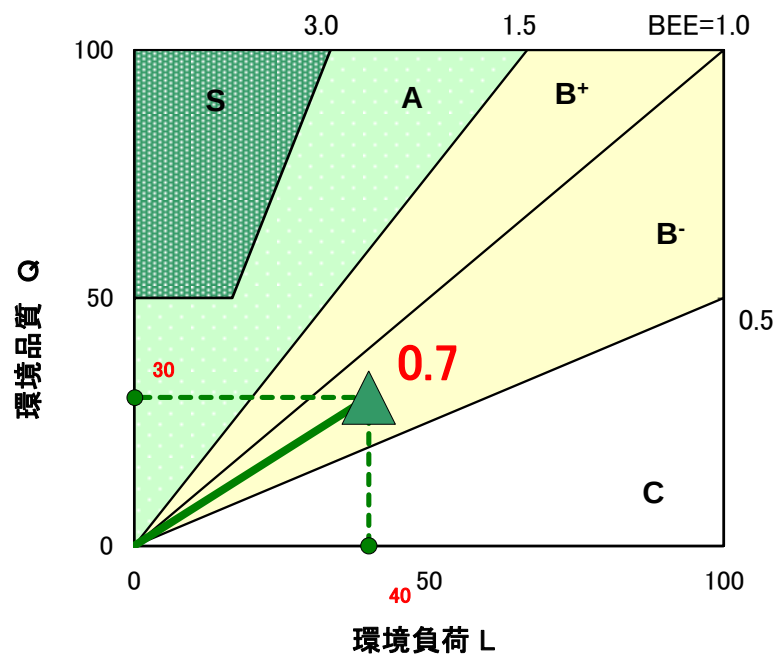
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★☆☆☆

BEE = 0.7

■BEE（環境効率） = Q（環境品質） / L（環境負荷）



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆☆☆☆

排出率
55%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
72

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	60.7
【重点事項4】 循環型社会の実現	66.0

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

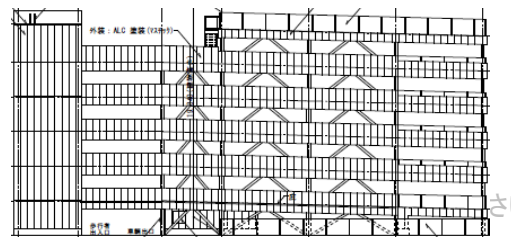
CASBEE® 熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

建物名称	熊本立体駐車場新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本県熊本市中央区下通1丁目12-	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	6 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018月1月 竣工	評価の実施日	2017年2月3日
敷地面積	2,009 ㎡	作成者	柳田 果李
建築面積	1,358 ㎡	確認日	2017年2月3日
延床面積	6,964 ㎡	確認者	吉永 拓郎

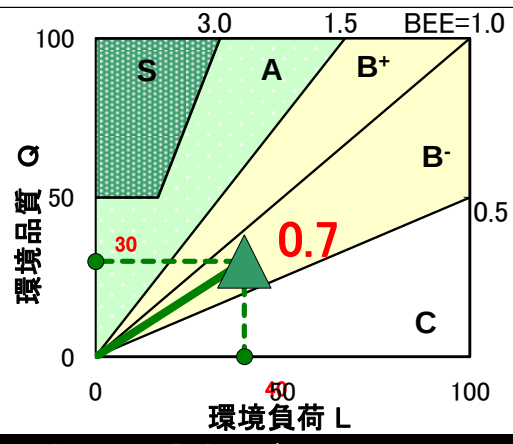
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート

BEE =0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C: ★

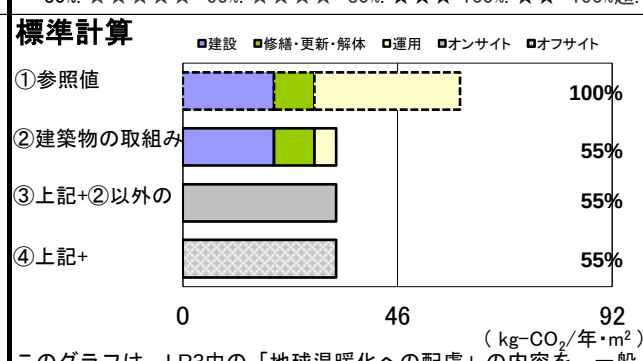


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート）

☆☆☆☆☆

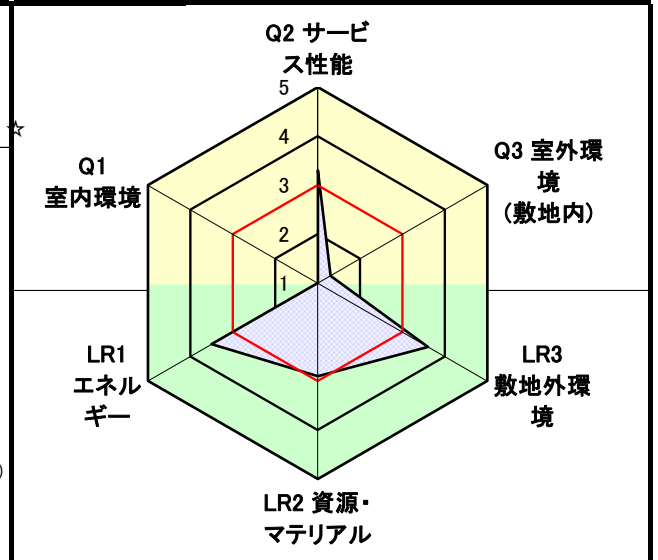
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

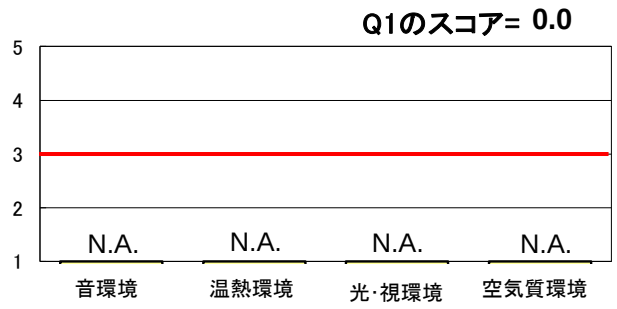
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



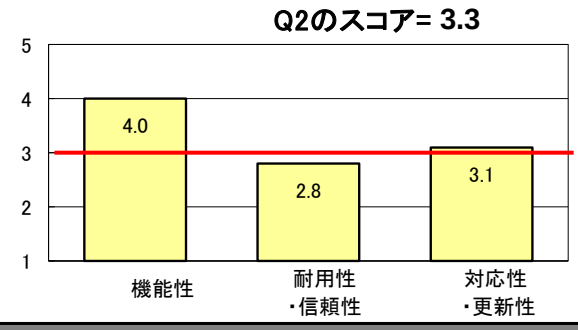
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質 — Q のスコア= 2.1

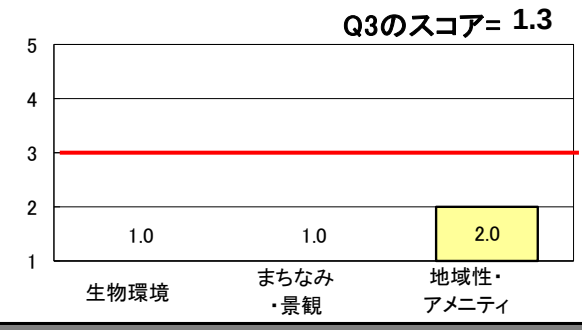
Q1 室内環境 — Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能 — Q2のスコア= 3.3

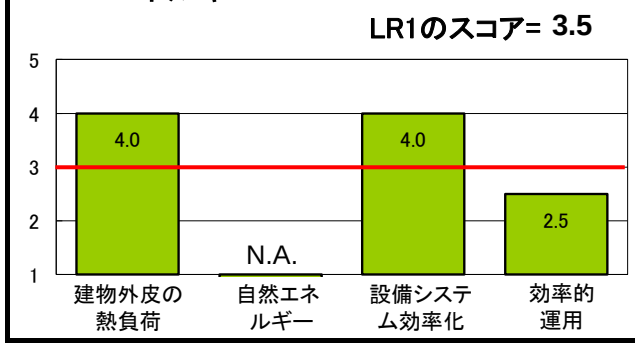


Q3 室外環境（敷地内） — Q3のスコア= 1.3

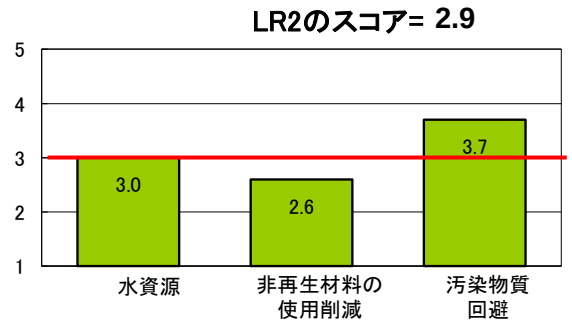


LR 環境負荷低減性 — LR のスコア= 3.4

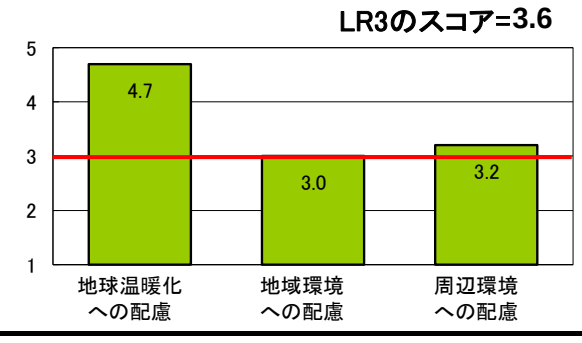
LR1 エネルギー — LR1のスコア= 3.5



LR2 資源・マテリアル — LR2のスコア= 2.9



LR3 敷地外環境 — LR3のスコア=3.6



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 72

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 85.0

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =65.0

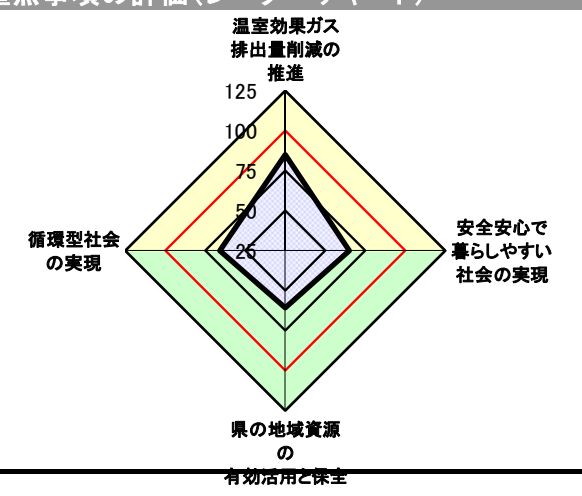
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 60.7

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =66.0

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2014年版
熊本立体駐車場新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.1**
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	-	-	
2 外皮性能		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.43	-	-	3.3
1 機能性		4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	1.00	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー法に適合	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.22	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.11	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.22	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.22	-	-	

2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			2.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.01	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	予備配管有	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.57	-	-	1.3
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.0	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			4.0	0.71	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm:0.15	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			2.5	0.29	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ー	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）	ロックウール吹付	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		LED照明設備	4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		1.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たす	5.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30		-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

熊本市の中心市街地内にあるために、既存前面道路に対し空地を確保し、緑化を図り景観形成への配慮をした。また、バリアフリーに務めてアクセスの利便性を高めた。

Q1 室内環境

・F☆☆☆☆建材を使用。安全の為、音声付誘導機器を設ける。

Q2 サービス性能

案内所を設置し、サービスの向上に努める。1階に幼児の一時預かり所を設け、ベビーカーの貸出等も行う。

Q3 室外環境（敷地内）

花壇等を設けて、地域への環境整備に貢献する。

LR1 エネルギー

LED照明を利用することで省エネルギー化を行う。

LR2 資源・マテリアル

特になし

LR3 敷地外環境

場外の駐車場を設けて、一時的な駐車希望にも対応する。

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	*熊本立体駐車場新築工事*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	72
重点事項 / 重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.60			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.20			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.20			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60.7	0.20	12.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				66	0.20	13.20
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数